

インドシナ経済回廊研修プログラム

“Grand Tour for Indochina Economic Corridor”

【概要と目的】

本プログラムは全学の 9 学部の学生を募集対象として情報コミュニケーション学部により科目「国際交流(インドシナ)」として設置されたものである。ただの観光旅行ではなく教育プログラムです。教育プログラムの内容・目的・理念を理解したうえで参加してください(予習・現地学習・現地報告会実施が義務です)。

このプログラムではインドシナ半島の 3 ヶ国(タイ・カンボジア・ベトナム)・4 都市(バンコク・シェムリアップ・プノンペン・ハノイ)を訪問し、経済成長・都市開発・観光開発の実情について実地研修をしながら、各国の 4 つの大学の学生たちと共同学習、協働調査、報告会を実施します。

三カ国ともに、すごい、本当にすごい勢いで成長をしています。渋滞・大気汚染・都市環境衛生・教育・貧富の差の拡大、どれもとても問題が多いです。日本では考えられないようなことがたくさんあります。それなのにとっても魅力的です。平均年齢が 30 歳前後とすごく若いです。若者ばかりです。急成長でとても混乱していますが、それが街も人も活気にあふれているように見えます。日本より貧しいはずなのに街にも社会にも笑顔がたえません。どうしてでしょうか？ このことを次の三つの観点から考え、学びます。

- ① 持続可能な開発・成長とは何か？
- ② 持続可能な観光開発とは何か？
- ③ 持続可能な都市開発時何か？

【教科書】

次の三つの国連の理念(決議文)がテキストになります。渡航前の予習で勉強します。訪問各国の各国事情については資料を配布します。

国際連合は 2030 年までに世界が達成すべき目標として 2015 年 9 月 25 日「持続可能な開発目標」(“Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development”)を決議しました。今日、SDGs (Sustainable Development Goals)と略称される決議では世界が達成すべき 17 のゴールと 169 のターゲットを掲げている。女性・ジェンダー・児童・高齢者、教育・貧困・衛生、人間らしい労働、貧富・地域間・国家間での格差、人権・人道、気候変動・環境資源エネルギーなど地球規模課題をほぼ網羅している。

国連はこれとほぼ並行し 2050 年には世界人口の過半が都市住民となり、各国での一極集中の弊害は地球規模課題となるとの予想から 2016 年 12 月 23 日「持続可能な都市開発」(“New Urban Agenda”)を決議し、今後のあるべき都市開発の指標を世界に示した。

近代化・産業化が十分ではない途上国にとって豊かな自然環境を生かした観光産業の開発は自国や国民の資本・所得の形成にとっても重要です。今や、グローバル化の進展により海外旅行は大衆化し、日本の大学生にとっては普通のことになっていますよね。しかし、観光開発は環境破壊、貧富の差の拡大、遺跡の破壊など様々な問題を生み出しています。これを受け、国際連合は 2016 年 2 月 9 日、2017 年を持続可能な観光開発(Sustainable Tourism Development)の世界的な運動の開始の年としました。

【交流先大学】

- ① タイ王国 シーナカリンウィロート大学
 ② カンボジア カンボジア工科大学他
 ③ ベトナム ベトナム国家大学ハノイ外国語大学他

<p>日程（予定） ※変更になる可能性があります</p>	<p>【事前学習】2019年5月27日(月)予定（駿河台または和泉） ※渡航先で初対面となるとプログラム実施に支障があるので全員出席を絶対要件に日程調整のうえ全員の勉強会を行います(不参加の場合、履修を取り消します) ※プログラム参加が確定次第、オンラインの交流学习を行います。Facebook のアカウント所持を必須とします。ない人は作成してください。担当による班分けをするので班毎で事前学習の実施が要件となります。</p> <p>【渡航日程】2019年8月25日(日)成田 or 羽田発, ~30日(金)バンコク, ~9月3日(火)シェムリアップ, ~9月7日(土)プノンペン, ~14日(土)ハノイ, 14日(土)早朝日本着の21日間</p> <p>【事後学習1】2019年9月25日(水)(駿河台または和泉)</p>		
<p>募集対象</p>	<p>情報コミュニケーション学部, 法学部, 商学部, 政治経済学部, 文学部, 経営学部, 国際日本学部, 理工学部, 総合数理学部の学部生(※下欄の「単位と評価」を参照のこと)</p>		
<p>募集人数</p>	<p>12名(最少催行人数6名)</p>		
<p>参加資格</p>	<p>①プログラムの達成目的・方法を理解しその実現に責任感をもって関わること、 ②TOEIC550点(英検2級、IELTS5.0、TOFEL ibt61、TOFELcbt170、TOFELtbt500)以上、 ③渡航前の事前学習に参加できること</p>		
<p>4年生の参加条件</p>	<p>4年生は参加可能ですが、言語(TOEIC650点以上)・渡航経験・組織管理経験等からプログラム・アシスタントの能力があると認められた者に限る。</p>		
<p>単位と評価</p>	<p>【情報コミュニケーション学部】授業への積極的かつ主体的な参加度及び成果物を基に成績を評価し、合格者には「国際交流(インドシナ)」2単位を付与します。 《注意事項》※この科目の単位は履修上限単位数に含まれません。 【情報コミュニケーション学部以外の学部】単位の取り扱いについては、所属学部によって取り扱いが異なるため、必ず事前に所属学部を確認すること。</p>		
<p>その他の参加要件</p>	<p>プログラム参加後の TOEIC 公開試験または TOEIC IP 試験の受験が必須となります。</p>		
<p>参加費用</p>	<p>¥280,000~290,000/1人(調整中 7月下旬確定予定) ※参加人数, 為替レート, 燃油サーチャージにより変動の可能性があります。 ※最終的な支払い金額は, 決定次第, お知らせいたします。</p> <table border="1" data-bbox="406 1697 1460 2074"> <tr> <td data-bbox="406 1697 981 2074"> <p>1. 上記参加費に含まれるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆航空券代(空港使用料・海外空港税・燃油加算税・出入国税を含む)・150,000円見込 ◆各空港とホテル間の送迎・25,000円見込 ◆現地ガイド・施設入場料の一部・ビザ査証代行(カンボジア)等・20,000円見込 ◆宿泊費(朝食付き)・81,000円見込 ◆会場借用ほか諸経費・5,000円見込 </td> <td data-bbox="981 1697 1460 2074"> <p>2. 参加費に含まれないが絶対に必要な費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆国内での交通費 ◆現地諸プログラム費用・40,000円 ◆現地での移動交通費、昼食/夕食代 ◆お土産等の個人での購入費用 ◆海外旅行保険 ※本学指定保険の加入が必須(10,000円前後)。 </td> </tr> </table>	<p>1. 上記参加費に含まれるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆航空券代(空港使用料・海外空港税・燃油加算税・出入国税を含む)・150,000円見込 ◆各空港とホテル間の送迎・25,000円見込 ◆現地ガイド・施設入場料の一部・ビザ査証代行(カンボジア)等・20,000円見込 ◆宿泊費(朝食付き)・81,000円見込 ◆会場借用ほか諸経費・5,000円見込 	<p>2. 参加費に含まれないが絶対に必要な費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆国内での交通費 ◆現地諸プログラム費用・40,000円 ◆現地での移動交通費、昼食/夕食代 ◆お土産等の個人での購入費用 ◆海外旅行保険 ※本学指定保険の加入が必須(10,000円前後)。
<p>1. 上記参加費に含まれるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆航空券代(空港使用料・海外空港税・燃油加算税・出入国税を含む)・150,000円見込 ◆各空港とホテル間の送迎・25,000円見込 ◆現地ガイド・施設入場料の一部・ビザ査証代行(カンボジア)等・20,000円見込 ◆宿泊費(朝食付き)・81,000円見込 ◆会場借用ほか諸経費・5,000円見込 	<p>2. 参加費に含まれないが絶対に必要な費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆国内での交通費 ◆現地諸プログラム費用・40,000円 ◆現地での移動交通費、昼食/夕食代 ◆お土産等の個人での購入費用 ◆海外旅行保険 ※本学指定保険の加入が必須(10,000円前後)。 		

助成制度	<p>【情報コミュニケーション学部生】①学部から「国際交流事業への実習料助成」として最大5万円程度(実際の参加費用・渡航費によって助成金額が異なります), ②「JASSO 海外留学支援制度」の奨学金(返還不要)として成績基準等を満たすもののうち12名に7万円をそれぞれ支給予定。</p> <p>※①学部からの「国際交流事業への実習料助成」は、<u>在学中2回</u>までです。</p> <p>【政治経済学部生・理工学部】上記②を支給。</p>
応募から参加までの流れ	
応募期間	【二次募集】4月24日(水)～5月8日(水)13時
ガイダンス ※二次募集向けの実施なし	<p>1年生 4月4日(木) 9時30分～10時30分 (第二校舎1・2番教室)</p> <p>2年生 4月2日(火)15時00分～16時00分 (第二校舎6番教室)</p> <p>3・4年生 4月3日(水)11時30分～12時30分 (LTリバティホール)</p>
応募方法	Oh-o! Meiji のアンケート一覧の「国際交流(インドシナ)応募フォーム」から応募してください。
選考方法	「国際交流(インドシナ)応募フォーム」と面接により選考。(2年生以上は GPA・TOEIC 等も参考にする)
面接	<p>「国際交流(インドシナ)応募フォーム」に面接希望時間を記入すること。</p> <p>・5月10日(金) 駿河台キャンパス 12:30～13:30, 13:30～14:30, 14:30～15:30</p> <p>・5月11日(土) 和泉キャンパス 10:00～11:00, 11:00～12:00</p>
参加決定者発表	<p>日時:5月14日(火)13:00</p> <p>方法:選考結果は Oh-o!Meiji をとおしてお知らせします。</p> <p>※ 選考の結果, 募集定員に満たない場合に限り, 2次募集を行う場合があります。</p>
参加申込	<p>合格者は, 以下のとおり手続きを行ってください。</p> <p>1. 「参加申込書」, 「参加誓約書」および「パスポートコピー」の提出</p> <p>合格者に配布される所定の申込書及び誓約書に必要な事項を記入して, パスポートのコピーと一緒に 5月20日(月)18時までに情報コミュニケーション学部事務室に提出をしてください。これらの書類の提出がない場合, プログラムへの参加が認められませんのでご注意ください。</p> <p>2. 旅行代金のお支払い</p> <p>支払いは, 2019年7月下旬を予定しています。支払い金額は7月中旬までにお知らせします。</p>
履修登録	上記の参加申込手続きを終えた者は, 学部事務室で「国際交流(インドシナ)」の履修登録を行います。各自で履修登録を行う必要はありません。
その他	
<p>・政変・大規模災害など不測の事態が生じ, 渡航が不可能になった場合には, その部分の学習について日本における代替講義・演習に代えるか, またはプログラム自体が中止となる可能性があります。</p> <p>・本プログラムで制作した映像などの成果物を明治大学の許可なく使用することはできません。</p> <p>・プログラム参加中に写真・ビデオ撮影をします。撮影した画像・映像は, 明治大学の広報活動等に使用されることがあります。申し込みをした時点で, その旨同意したものとみなします。</p> <p>・次年度募集時に, 参加者向けガイダンスにて報告をお願いすることがあります。</p>	

2019.4.24 二次募集

・引率教員はプログラム実施に重大な支障をもたらす言動をとる学生に当人の自己負担で強制帰国をさせることができます。

問 い 合 わ せ 先

情報コミュニケーション学部事務室(和泉・駿河台)

【開室時間】平日 9 時～11 時 30 分, 12 時 30 分～18 時

土曜 9 時～12 時 30 分